

UDCBK 未来創造セミナー

老上西の湖上交通

草津市立草津宿街道交流館

奈良時代 – 琵琶湖水運の歴史

琵琶湖に「八十の湊」

「磯の崎 漕ぎ廻み行けば 近江の海
八十の湊に鵠多に鳴く」 『万葉集』

木材の輸送

藤原宮・東大寺・石山寺の造営に際し、木材を輸送

甲賀山→三雲津→ → 野洲川→

伊賀山→矢川津→杣川→ 野洲川→

高島山→朽木 →安曇川→船木 →

奈良← 木津川← 宇治川← 瀬田川✓

琵琶湖

平安時代 – 琵琶湖水運の歴史

・平安京への輸送経路

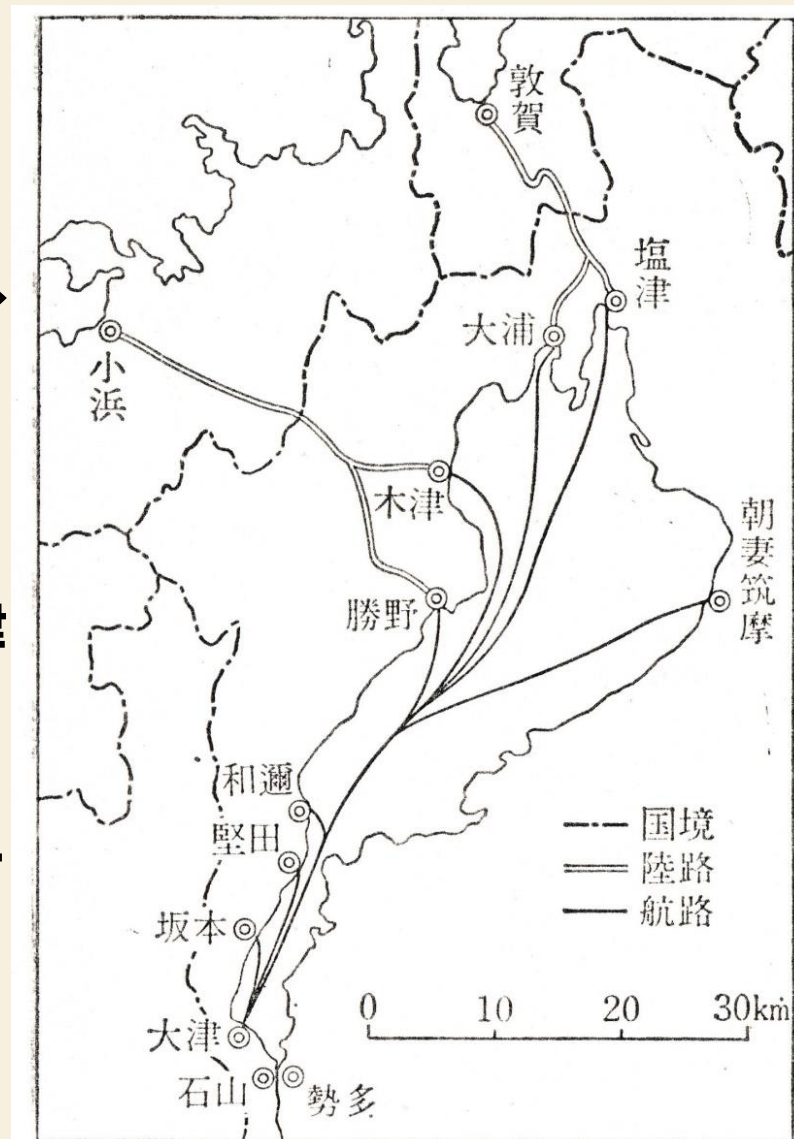
『延喜式』 延長5年（927）

- ・ 若狭 → 勝野津 → 大津
- ・ 越前・加賀・能登・越中 → 敦賀 → 塩津 → 大津
- 京

（東大寺の庄園から）

- ・ 尾張・美濃 → 朝妻 → 大津

大津が平安京の外港を担う。
矢橋が交易の場として賑わっていた。『今昔物語』



鎌倉・室町時代 – 琵琶湖水運の歴史

琵琶湖東西方向の通行が増加

- ・ 湖上輸送の増加。

北国莊園の年貢は古代同様のルートで京都・奈良へ。

- ・ 比叡山の外港坂本が台頭。

山門領年貢の集中と京都への中継。馬借・車借が集住。

- ・ 京都と東国を結ぶルートとして利用

軍事上の経路としても

京都→坂本→矢橋・山田・志那・島・八坂・朝妻→
東国へ

連歌師宗長もたびたび通行「急がば廻れ…」

- ・ 信長、秀吉による琵琶湖の掌握。● 観音寺が船奉行

矢橋の渡しをめぐる地名

(経路は主に近世による)

- 東海道 
- 中山道 
- その他の街道 



草津宿街道交流館編

『急がば回れ—東海道と矢橋の渡し』

2005より

0 1 2

江戸時代 – 琵琶湖水運の歴史

・北国物資

湖北四力浦（塩津・大浦・海津・今津）

→大津 → 京・大坂

・東国物資

彦根三湊（長浜・米原・彦根）

→ 大津 → 京・大坂

（寛文年間）西廻航路の整備

琵琶湖経由の北国物資が減少

街道交通の整備

京都⇔大津⇔（湖上）⇔矢橋⇔草津⇔江戸方面

大津台頭（坂本衰退） = 矢橋台頭（志那・山田衰退）

「他国の人には甚だ湖上の渡船を恐れ乗船することを忌む人もありとかや。然れども湖上危うきこと稀なり。偏に風による。」 『近江輿地志略』 享保19年（1733）

矢橋の渡し船は有効な手段か

種別	区間	草津 —(東海道)— 大津	
		草津 — 矢橋	矢橋 ~ 大津
距離		「3里半6町」14. 3 ^キ □余	
		「1里8町」約4. 8 ^キ □	「50町」+約9町 約6. 5 ^キ □
時間		約3時間	
		約1時間	約1時間30分
費用 (荷物一駄*)		251文	
		74文	44文
費用(人)		無料	
		無料	15文

渡し船の利点は、ほかにも・・・。

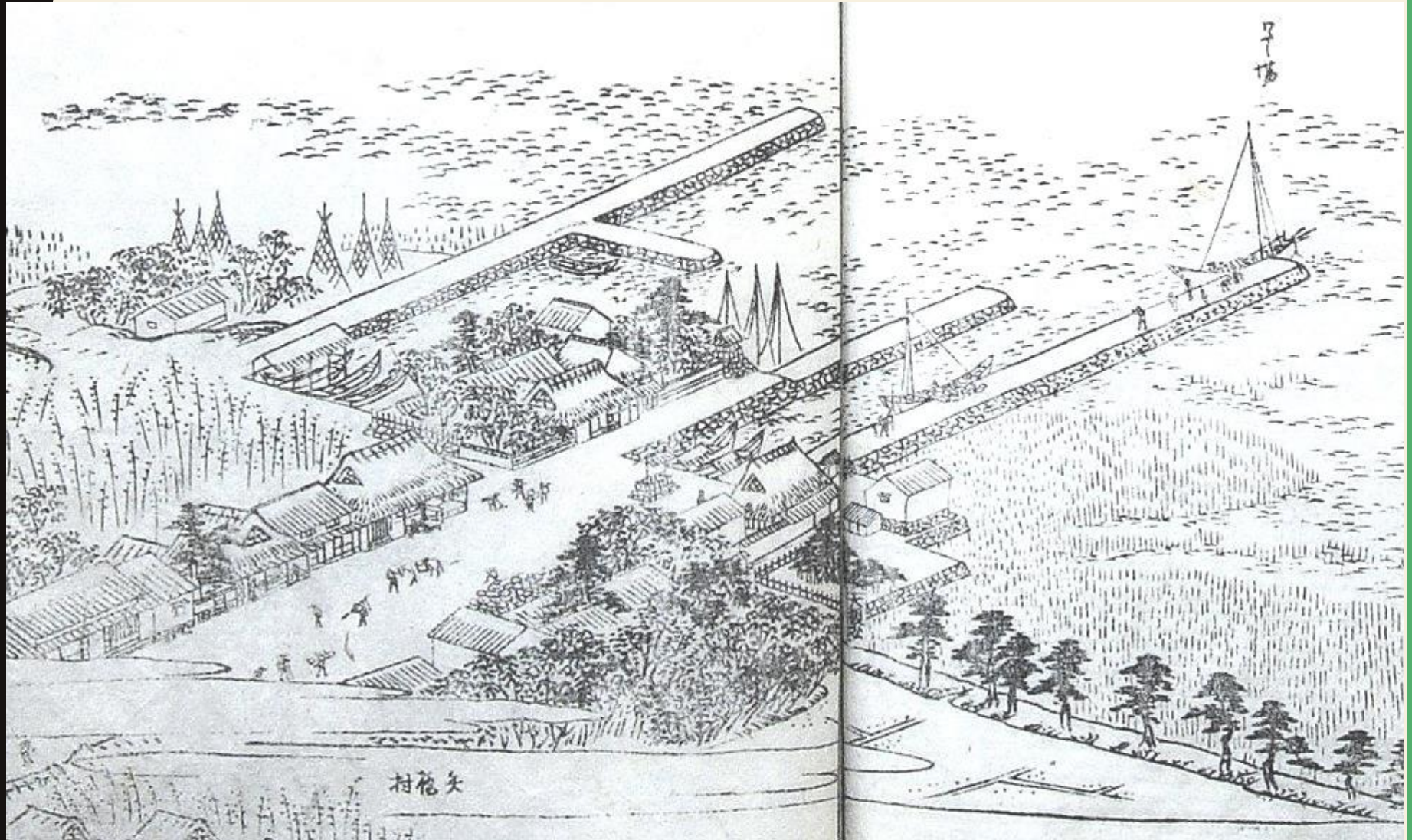
矢倉～矢橋 25町 (2.7^キ□余) →浜までは3.2^キ□余ある

矢橋～石場 湖上50町 (5.5^キ□余)

→石場まで約4.0^キ□、小船入まで約4.5^キ□

*費用は、東海道宿村大概帳(天保14年)。荷物一駄は40貫目まで。

矢橋渡口場 『東海道名所図会』 寛政9年 (1787)

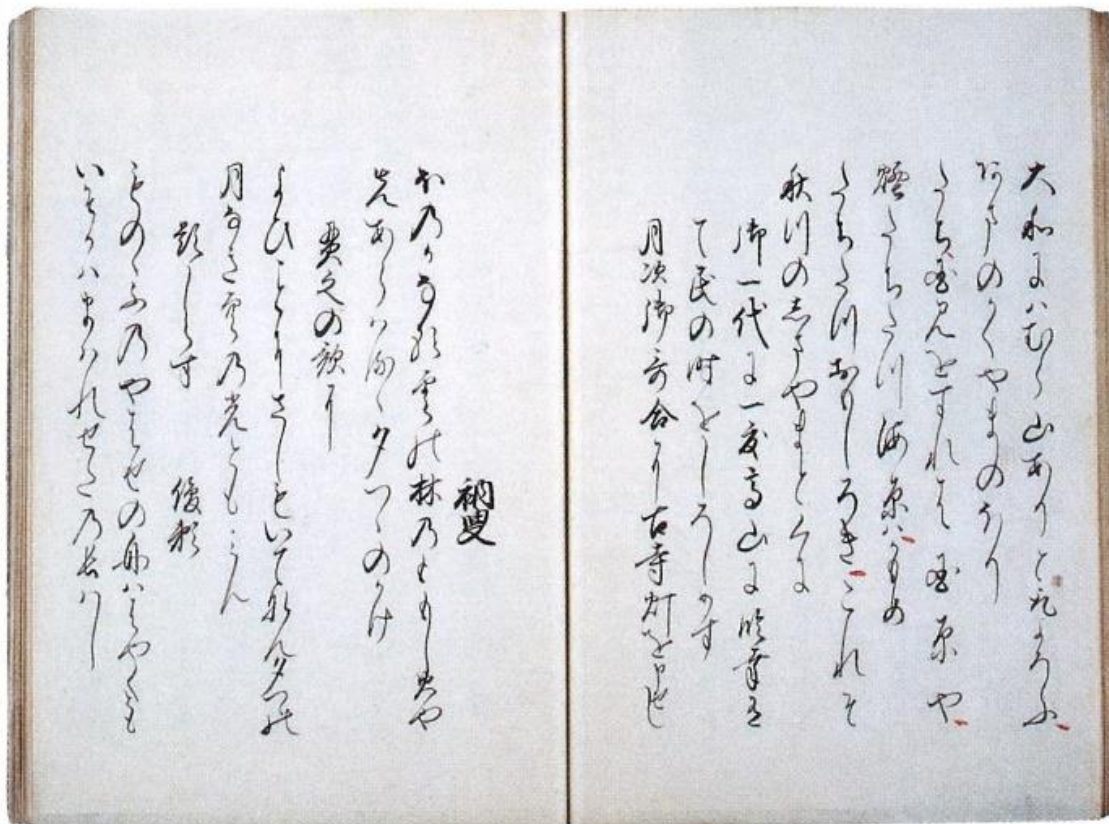




雲玉和歌抄 (京都大学附属図書館蔵本)

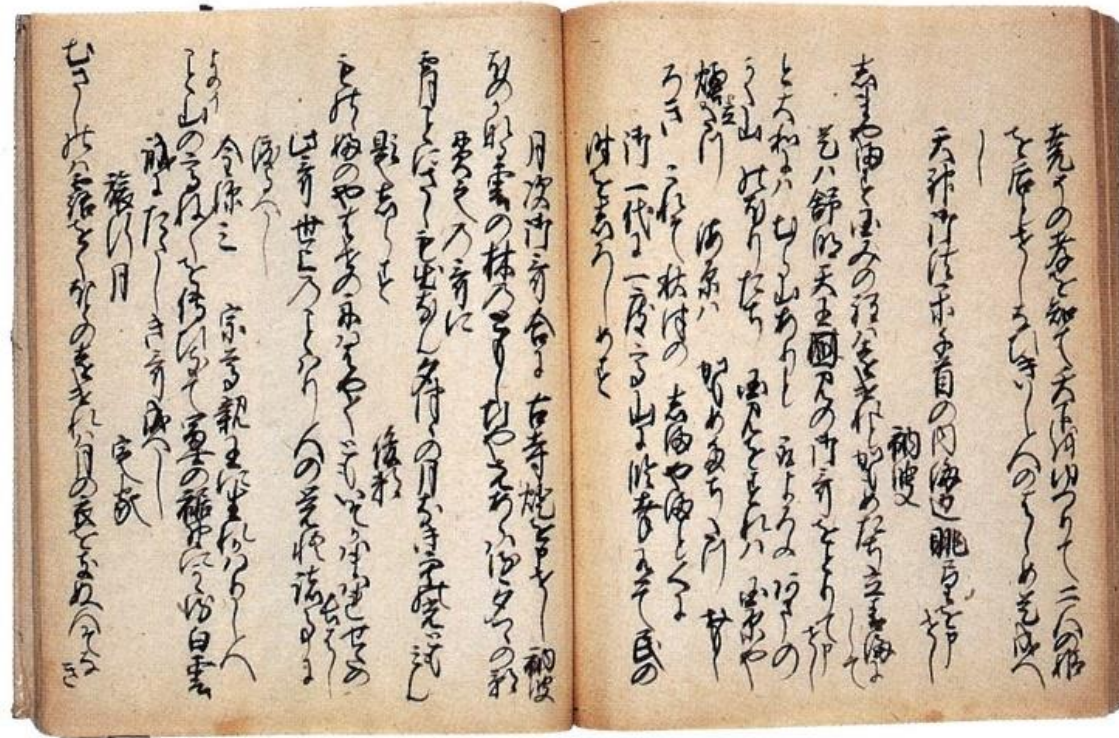
題しらず 俊頼

ものゝふのやばせの舟ははやくとも
いそかはまわれせたの長はし」



醒睡笑 (国立公文書館蔵本)

「いそがばまわれといふことは、
物ことにあるべき遠慮なり 宗長のよめる
武士のやはせのふねははやくとも
いそかはまわれ せたのなかはし」



国立公文書館
蔵書番号 25604
冊数 1 (1)
巻数 201 9

刊行された醒睡笑 (万治元年・1658)

京都大学附属図書館蔵



醒睡笑で「急がば回れ」は・・・



宗長(1448 - 1532)

室町・戦国時代の連歌師

宗長木像
(吐月峰柴屋寺蔵)

草津宿街道交流館編
『急がば回れ—東海道と矢橋の渡し』
2005より

新選組伊東甲子太郎と 矢橋の渡し



「ものゝふの矢走の渡しわたるとも
渡りかたきはうき世なりけり」 (慶応3年)

同じ秋、またも御国の為にと尾張の国へ行くとして矢走の渡
にて

「国の為おもい入りてはもののふの
やばせのときもなにいとふべき」 (慶応3年)

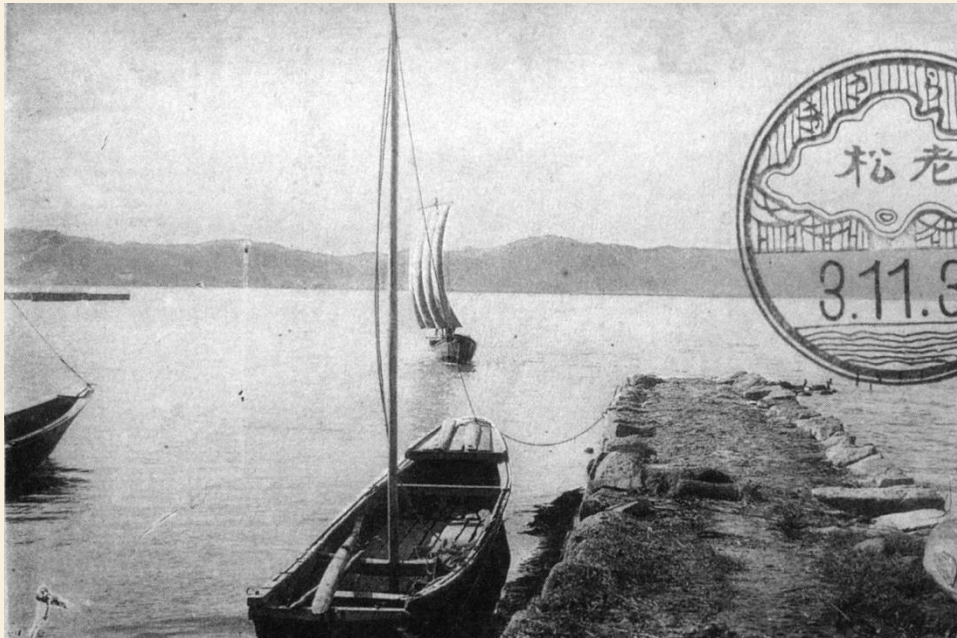
「おもひ入るやまと心の一筋に矢走を渡る船の数々」

伊東甲子太郎歌集「残しおく言の葉草」より

明治～昭和 – 琵琶湖水運の歴史

- ・ 大津、塩津、海津、米原、松原各港に蒸気船が就航。
- ・ 明治5年 山田 – 大津に定期航路
(山田・草津間は矢橋・草津間より少し近い。)
- ・ 同8年ころから山田港に蒸気船導入。
矢橋航路は乗客を山田航路に奪われる。
- ・ 琵琶湖に鉄道連絡船が就航
長浜 ⇔ 米原 ⇔ 松原 ⇔ 大津
* この区間が東海道線最後の未開通区間
(明治22年開通)
- ・ 矢橋航路の消滅と山田・志那航路の存続。
- ・ 鉄道開通後は山田航路の需要も激減。
- ・ 矢橋港は大正期以降は漁港に。

明治～昭和 – 琵琶湖水運の歴史



明治時代の矢橋港

大正時代の矢橋港



郷土出版社
『保存版ふるさと草津』
2012より